

# 卒後研修委員会

## 第13回 指導医、研修医との

### 「交流会」を開催して

卒後研修担当理事 片岡 晃 哉

平成16年度より新卒後研修制度が始まり、すでに15期生の研修が終了しようとしています。当初府医で指導医と研修医の交流会が開かれたことを参考に、北区医師会で平成19年度に第1回「交流会」を開催いたしました。その後「交流会」として毎年開催しています。

なお、大阪府医師会も昨年度より「研修医ウェルカムパーティーパートⅡ」として2年目研修医を対象とした会を開催しています。

今回は、令和元年10月19日（土）学術講演会（北野病院 小児外科部長 諸富嘉樹先生による『外来で遭遇する機会の多い小児外科疾患』）に引き続き、山西福祉会館にて北区内の臨床研修指定病院（北野病院、済生会中津病院、住友病院）の指導医と研修医、北区内の地域医療研修に参加している診療所の指

導医が参加して指導医、研修医との「交流会」が開催されました。

当日の出席者（敬称略）	32名参加
北区医師会長	田淵義勝
研修医	高屋龍生、熊澤明子、大植薫、辻村敦史、近藤良紀、竹内彬、酒井達紘（以上、北野病院）
浅田侑樹、上田洋行、坂野勇太、山口翼、山本翔、川崎友暉、川端祥太、新堂りな、山田いづみ（以上、住友病院）	
武内晋司郎、井上達人、西原奈菜子、笹瀬啓司、佐野隼大、堤英世、池内英祐（以上、大阪府済生会中津病院）	
足立健彦（北野病院）五十嵐康貴（北野病院医師卒後教育センター）山本浩司（住友病院）安井良則（大阪府済生会中津病院）	
診療所指導医	大原裕彦（大原クリニック）片岡晃哉（兵田クリニック）澤田宏子（澤田内科医院）
オブザーバー	諸富嘉樹（北野病院小児外科部長）

「交流会」に先立って開催された第156回大阪市北区医師会学術講演会は、北野病院 小児外科部長 諸富嘉樹先生にお願いして『外来で遭遇する機会の多い小児外科疾患』という演題で講演していただきました。特に漏斗胸は小児だけでなく大人にも対応しているとのことでした。それ以外にもとても精力的でユニークな外来をされていることがわかりました。

「交流会」は、まず各病院研修医から発表していただきました。北野病院の高屋龍生先生から「診療所研修」について、済生会中津病院の武内晋司郎先生から「済生会川俣病院での研修」

について、住友病院の坂野勇太先生から「夕張市立診療所での研修」についてそれぞれ発表がありました。その後、施設内で移動し立食形式で参加者各位よりコメントをいただきました。和気あいあいとした楽しい時間を過ごすことができました。交流会には講演していただいた北野病院 諸富先生も参加していただき楽しい会話を楽しむことができました。

新研修制度になってからは、以前のように大学の医局に在籍したうえで動くのとは違い、研修医のその後のフォローがしばらく、研修医がどのようなになったか、私たちが協力して行った地域医療研修が後の研修にどの程度有効であったかを判断できないことが問題であると考えていましたが、住友病院では山本

浩司先生が中心となり過去に在籍した研修医約100名に連絡し、60名が集まり楽しい時間を過ごされたとのこと。

令和元年7月22日(月)に大阪府医主催の大阪府臨床研修制度推進委員会に出席してきました。内容は大阪府医師会主催の「指導医のための教育ワークショップ」に関するものです。北区医師会ではこの「指導医のための教育ワークショップ」に参加する北区医師会員(病院の勤務医も含む)には参加費の半額を補助しておりますのでこちらにも参加をよろしくお願いいたします。

令和の時代になりラグビーワールドカップもありました。私も中学から47歳までラグビーをしており、「ワールドカップを日本でやって大丈夫?」と思っていました。日本は予想以上(失礼)の活躍もあって大成功と言える結果となりました。ギスギスしたことが多い中で、こうしたワクワクできることが多いといいですね。「交流会」も意義ある催しと考えていて、財政面の問題もありますが今後も開催していきたいと考えています。

地域医療研修のやり方も年々変わっています。次年度からさらに研修日程を中心に新しいやり方を取り入れられることになりそうです。これからも北区医師会の研修医に対する地域医療研修にできるだけ多くの医師会員の参加をお願いします。

第156回学術講演会／指導医・研修医との「交流会」

日時：令和元年10月19日(土)17:00～

場所：山西福祉記念会館 3階 会議室



第156回学術講演会／指導医・研修医との「交流会」

日時：令和元年10月19日(土)17:00～

場所：山西福祉記念会館 3階 会議室



## 【卒後研修の感想】

### 地域研修報告

北野病院2年次初期研修医 高屋 龍 生

2019年4月、初期研修で定められた地域医療研修として、北区を中心とした5つの診療所にて研修させていただきました。ご協力いただきました先生方やスタッフの皆様にご礼申し上げますとともに、ここに報告させていただきます。

当院のプログラムでは1か月間、曜日ごとに異なる診療所にて研修させていただくことになっており、私は北区からセンブリッククリニック様、大原クリニック様、福効医院様にご協力いただきました。加えて都島区のこばし内科クリニック様、淀川区の中川整形外科クリニック様にもご協力いただきました。

研修内容は主に外来診療や処置の見学であり、さらに訪問診療の見学・実施をさせていただくこともありました。いずれの研修においても普段の当院での研修とは大きく異なり、貴重な経験となりました。私たちが自院で研修する際の外来とは「救急外来」であり2次救急に相当するような患者や診療所からの紹介患者を担当することがほとんどです。しかし、実際に地域

の最前線ともいえる「かかりつけ」は診療所であり、主訴も大きく異なりました。生活習慣の改善ができずに高血圧が続く人、不定愁訴の多い人、性感染症の人など、普段あまり私たちは診ていませんでしたが実際の社会における健康問題を肌で感じることとなりました。

また訪問診療はさらに衝撃が大きく、ほぼ寝たきりで家族の懸命なサポートを受ける人、終末期で当院から在宅医療へ移行することになった人、103歳でご飯を食べなくなってきた人、様々な環境の方がいらしていました。急性期病院で研修をしている以上仕方のないことではありますが、自分が担当した人のその後にまで目を向けていなかったという事実を痛感しました。今後の救急外来や将来進む診療科における患者対応においても、今日の前の症状だけでなくその背景にまで必ず目を向けられるようになりたいと思います。

今回、地域研修をさせていただくことで自分が働く地域の開業医の先生方と密に関わらせて頂けました。日々の診療に欠かさない病診連携という側面も間近に感じられ、非常に多くのことを学ばせていただきました。今後後期研修医になるとともに、より献身的に地域の健康に寄与していけたら幸いです。この度は貴重な機会を頂戴し、誠にありがとうございました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

大阪府済生会中津病院 研修医2年目 福島 有 星

私は研修医2年目の7月に、澤田内科医院（大阪市北区梅田1丁目2番2-200 大阪駅前第2ビル2階）と済生会日田病院（日田市大字三和643番地の7）に地域医療研修させていただきました。

澤田内科医院では通勤前や通勤後に通院する若年の患者が多く、普段自分が入院患者や救急外来で診察する患者とは層が違うことを感じました。体調不良で点滴してほしい患者や皮膚の皮疹で塗布薬がほしい患者など軽症の患者もいれば、通院で抗菌薬投与している患者もいました。一般的な採血やレントゲン検査は可能であり、補液・抗菌薬投与など行える施設でした。

澤田先生は、基本軽症な患者が多いけどその中にふらつと重症患者が隠れていたりするからおかしいと思ったら自分の病院でできる検査をして、より精査できる基幹病院に紹介するのが役目、とおっしゃっていました。

実際、胸痛が主訴の若年男性は胸部レントゲンにて1度気胸の診断となり経過観察する場合もあれば、頭痛が主訴の若年男性はクッシング現象を認めて意識レベルがやや悪かったのですぐに頭部CTが取れる基幹病院に紹介すると、くも膜下出血だったというケースもありました。

また私が澤田内科医院で研修させていただいたときに、首から体幹にかけての皮疹が主訴で来院された若年女性がいまして。病歴聴取すると麻疹が疑わしいとのことで検体採取し保健所に連絡するという場面も遭遇しました。検査の結果は陰性であり、ウイルス感染による皮疹と判断しました。研修医として基幹病院にいると保健所に連絡する場面に遭遇することなど滅多に無いため貴重な経験となりました。

澤田先生は業務の隙間で私に患者のことや施設、基幹病院との関わりなど様々なことを教えて下さいました。短い間でしかも非常に貴重な経験をさせていただき、非常に感謝しています。

済生会日田病院では循環器内科で3週間ローテーションさせていただきました。私自身、九州出身で日田にも訪れたことはありませんでしたが済生会日田病院の近くは行ったことがなく、周囲にはクリニックや医院はあるものの病床を保有している病院は他にありませんでした。

各科の医師の数も済生会中津病院よりも少なく、また診療科も限られている中で医療を行っていると思えました。循環器内科では予定の検査としてフォローアップの冠動脈造影検査やペースメーカー留置を定期的に行いつつ、急性心不全や急性心筋梗塞などを救急外来で診察、同時に治療を行う姿も見られました。済生会日田病院には心臓血管外科はなく、外科的治療が必

要と判断されると久留米大学附属病院まで救急車で1〜2時間かけて転院することとなり、私の担当した患者も急性心筋梗塞、随伴する急性心不全が治療抵抗性であり挿管管理で改善なく、その増悪因子として高度の僧帽弁逆流症が原因と考えられるため外科的治療が必要と判断されました。久留米大学附属病院まで転院する際に同乗させていただきました。

また往診や僻地の診療所での研修もありました。往診では近くの公民館で患者が集まり定期的な診察と薬剤処方を実施していました。診療所では大阪ではあまり見かけない外傷も経験させていただき、外科的・内科的にも異常が認められる場合は済生会日田病院など基幹病院に紹介するといった、僻地ではなくてはならない診療を行っていました。なにより地域住民との距離も近く、医師と患者の関係は都会の病院とは違うものの、形は違えど信頼関係を感じる事が出来ました。

最後になりましたが、地域医療研修は今後の医療に活かすこととの出来る貴重な経験であったと感じております。都会の開業医の診療・診察を経験させていただいた澤田内科医院の関係者の方々、また地域医療を経験させていただいた済生会日田病院の関係者の方々、本当にありがとうございます。

住友病院 大北 莉奈

住友病院初期研修医2年目の大北莉奈です。私は令和元年12月の1か月間、地域医療研修として北区の中村診療所、澤田内科医院、本出診療所、大阪Zewerクリニック、兵田クリニックにて研修を行いましたので、その時の内容について報告させていただきます。はじめに、中村診療所では主に上下部消化管内視鏡検査、内視鏡の合間に外来診療をされていました。会社員の方が多く、朝7時台に内視鏡検査をして、人によっては午後から仕事に戻られる方もいらっしゃいました。都会ならではの、働く人のニーズにあった診療をされていました。また、中村積方先生はバレエやサックスなど多趣味で、診療の合間にお話ししてくださり大変興味深かったです。続いて、澤田内科医院の外来には、咳嗽や腹痛など一般的な主訴の方や、高血圧、糖尿病の方も多く受診されていました。長引く咳嗽で、他のクリニックを受診したものの改善しなため受診される方が見受けられました。説明に納得がいかなかったり、症状がなかなか改善しないと、このように他の医療機関を受診される方が多く、開業医ならではの難しさを教えていただきました。また、澤田先生は子育てをしながらも、完璧に仕事をこなされており、同じ大学の先輩として誇りに思いました。次に本出診療所の本出

先生は、地域の患者さまに親しまれており、わたしの思い描く街のお医者さんそのものでした。定期的に採血や胸部レントゲン、超音波検査などを行っておられ、異常があればすぐに適切な病院へ紹介するという流れがしっかりしていることが印象的でした。大阪New ARTクリニックは、不妊治療を主にされています。不妊に悩んでいるたくさんの女性と、その配偶者の方が受診されており、富山先生は採卵、受精、外来と多忙を極めておられました。的確なプランを提示し、妊娠への道筋を照らしてくれる神様のように感じました。兵田クリニックはペインクリニックで、肩こりや腰痛など、どこかしらに痛みを抱えている方は多く、鍼治療やトリガーポイント注射などをしてもらうためにたくさんの方が受診されていました。痛みが和らぎ、笑顔で帰られる患者さまをみて、私もうれしくなりました。最後になりましたが、1か月間お忙しいところ研修させていただきありがとうございます。今後も患者さまの紹介等でお世話になることが多いと思います。引き続き、よろしくお願い致します。

住友病院 上 田 洋 行

住友病院初期研修医2年目の上田洋行と申します。私は令和

元年の8月に一か月間、地域医療研修として北区の大歳内科、センブククリニック、大原クリニックにて研修を行いましたのでその時の内容についてご報告させていただきます。はじめに、大歳内科は梅田の中心部にあるため会社員の方が仕事の合間に多く来院されるのですが、あわせて多くの糖尿病患者さまも受診されています。その場で血糖値とHbA1cを測定する装置を導入され、また電子カルテで合併症の検査や画像検査の履歴をシステムティックに管理されていたのが印象的でしたが、ただ検査結果を評価するのではなく、ひとりひとりの患者さまのライフスタイルを踏まえて治療方針を提案されました。私は内分泌代謝内科へ進む予定ですが、大先輩である大歳先生の外来診療をすぐ横で、慣れない水銀血圧計の扱いに内心戸惑いつつもじっくりと見ることができたのは貴重な経験でした。次に、センブククリニックの千福先生はとても明るい先生で、顔なじみの患者さまが「夏バテですねん」と気軽にやってこられるような診療所です。「よっしや」と声をかけると両手の脈をはかり、「あ、胃腸が弱ってるな」と言ってお腹をさすり、「〇〇番、よろしく」と漢方を飲ませて、「ほら、これで楽になったやろ」と東洋医学や漢方の知識がほぼ皆無だった私にとってはまるで魔法のような診療をされていました。実際に診察しながら脈の見方やツボの意味や押さえ方を丁寧に教えていただいたり、診察の合間に生薬の効能を解説していただいたりと、どっぷりと



東洋医学に浸ることができました。住友病院に戻ってからも漢方を処方するときはいつも千福先生がおっしゃっていたことを思い出しています。最後に大原クリニックですが、院長の大原裕彦先生の外来に付いて、膀胱洗浄や陰茎の焼灼術といった手技を教えていただいたり、尿沈渣の鏡検や腎エコーをとらせていただいたりしました。泌尿器科のローションを選択してないこともあり、非常に勉強になりました。他にも尋常性疣贅に対する凍結療法や粉瘤に対する切開排膿といった皮膚疾患の治療も同時に勉強させていただきました。また、医師会の活動や連携病院との書類のやりとりの仕組みを教えていただき、診療情報提供書を記載する際に意識するポイントについても学ぶことができました。どの先生方にも、お昼休みには近所の美味しいランチやお気に入りのお茶菓子などをごちそうになりながら、ご自身のこれまでのご経験や診療所の理念などを気さくに話していただき、おかげさまで先生方と交流を持つ機会にも恵まれました。最後になりますが、一ヶ月間大変お世話になりましたこと、この場を借りて改めてお礼申し上げます。今後とも患者さまの紹介や医師会の会合などでお世話になる機会があるかと思いますが、引き続き何卒よろしくお願いいたします。

